

福祉サービス第三者評価結果報告書【平成31年度(2019年度)】

2020年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0044

所在地 東京都世田谷区赤堤1-10-23 三井ハイム102

評価機関名 合同会社フェアリンク

認証評価機関番号

機構 12 - 213

電話番号 03-6379-1449

代表者氏名 加藤浩之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	加藤浩之	福祉、経営	H0201050
	②	金子晴子	福祉	H0803032
	③	田鹿 勉	経営	H1301026
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認証保育所A型・B型			
評価対象事業所名称	メリーポピンズ豊洲ルーム			
事業所連絡先	〒	135-0061		
	所在地	東京都江東区豊洲1丁目3番1号 キャナルワーフタワーズ・イーストタワー1階		
	TEL	03-6220-1819		
事業所代表者氏名	宮越理人			
契約日	2019年 10月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2019年 11月 21日			
利用者調査結果報告日	2020年 1月 14日			
自己評価の調査票配付日	2019年 11月 26日			
自己評価結果報告日	2020年 1月 15日			
訪問調査日	2020年 1月 16日			
評価合議日	2020年 1月 28日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査では保護者に対する書面によるアンケート調査を実施。施設長名の依頼状及び調査票、返送用封筒の3点を対象者の人数分の封筒に封入し、園に送付のうえ、子どもの送り迎えの際に保護者に配布してもらった。 ・利用者調査の一環として、保育士の資格を有する担当評価者2名で、午前中の戸外保育や、園児と同じ献立の給食を試食しながら食堂での昼食の様子を観察した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2020年 月 日

事業者代表者氏名 代表取締役 高堀 雄一郎

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)都会の中であってもたくさんの自然と触れ合い、戸外遊びを大切にしている。 2)地域交流を通して、様々な人と出会い、コミュニケーションを大切にしている。 3)食育活動において自分たちで作った野菜を食べることで、食べる意欲を育てる。 4)子どもが自分の意思でやりたいことを決められるように見守る。 5)裸足保育・雑巾がけの実施や薄着を推奨し、強い身体を育てる。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割 園運営に対する意識向上(スキルアップ)</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 自己健康管理、責任感、研修受講意欲</p>

調査対象	アンケートの対象は調査実施時点で在籍している子どもの保護者全員(ただし世帯単位)。2人以上の子どもが同じ通園している場合は、年齢がいちばん下の子どものクラスに関して回答してもらった。
調査方法	書面による無記名式のアンケート調査を実施。共通評価項目に対し「はい」「どちらとも言えない」「いいえ」「非該当・わからない」の4つの選択肢を用意。依頼状、調査票及び専用の返信用封筒を園経由で保護者に配付し、記入後、評価機関に直接郵送してもらった。
利用者総数	39
利用者家族総数(世帯)	38
共通評価項目による調査対象者数	38
共通評価項目による調査の有効回答者数	20
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	52.6

利用者調査全体のコメント

各共通評価項目に対し、肯定的な回答(はい)の割合が9割以上に達した項目が全17問中8問と半数近くを占め、中でも保育の内容に関する設問(問1～問4)と子どもの気持ちの尊重についての設問(問13)では回答者の全員が「はい」と回答している。不満や要望への対応に関する項目(問16、問17)では、他と比べて「非該当・わからない」の集計数が増えており、自由記述欄には「不満や要望を伝えたことがない」「相談したいと思ったことがない」といったコメントが寄せられている。共通評価項目に加え、園の保育に対する総合的な感想を5段階で尋ねたところ、最上位の「とても満足」が12人(60.0%)、続く「満足」が8人(40.0%)で、「どちらとも言えない」、「不満」「大変不満」の回答はなかった。保護者の満足度は非常に高い水準にあると推測される。

利用者調査の一環として、保育士の資格を持つ担当評価者2名が午前中の戸外保育や子どもと同じ献立の給食を試食しながら食事の場をを観察した。当日は雨天だったため、隣接するマンション内のキッズルームで0歳児クラスと1・2歳児クラスの子どもが時間をずらして遊ぶ様子を観察し、その結果を訪問調査の際に園長に報告した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	20	0	0	0
実際の調査票の質問文(以下、Q): 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	20	0	0	0
Q: 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	20	0	0	0
Q: 園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっていると思いますか				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	20	0	0	0
Q: 戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されていると思いますか				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	16	1	0	3
Q: 急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれていると思いますか				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	16	3	0	1
Q: 安全対策が十分取られていると思いますか				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	18	1	0	1
Q: 行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされていると思いますか				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	15	5	0	0
Q: お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて職員と話したり相談することができるような信頼関係があると思いますか				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	15	3	2	0
Q: 園内は清潔で整理された空間になっていると思いますか				
10. 職員の接遇・態度は適切か	19	1	0	0
Q: あなたは、職員の言葉遣いや態度、身だしなみなどが適切だと思いますか				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	19	1	0	0
Q:子どもがけがをしたり、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できますか				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	16	1	0	3
Q:子ども同士のトラブルやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	20	0	0	0
Q:あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	17	1	1	1
Q:あなたやお子さんのプライバシー(他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと)を職員は守ってくれていると思いますか				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	16	4	0	0
Q:お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすいと思いますか				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	14	2	0	4
Q:あなたが不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれていると思いますか				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	11	0	1	8
Q:あなたが困ったときに、職員以外の人(役所や第三者委員など)にも相談できることをわかりやすく伝えてくれましたか				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
1	カテゴリ1	
	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	○非該当	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	
○非該当		
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	
○非該当		
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	
○非該当		
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
○非該当		
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく	
○非該当		
カテゴリ1の講評		
<p>施設長は運営責任者として子どもと家庭の状況や運営上の問題等の把握に努めている</p> <p>社会福祉法人を中核とした関連法人のグループが共通の理念・方針のもとで保育関連事業を全国に展開している。一体的な管理体制のもと、本社事業部がエリアごとに各事業所の運営をサポートしている。施設長は園の職務分担に基づき、運営責任者としてリーダーシップを発揮しながら職員集団を統率するとともに、一人ひとりの子どもと家庭の状況や運営上の問題等の把握に努めている。今回実施した利用者調査の結果から、保護者の信頼を集めている様子がうかがえる。日々の業務に追われる中で、課題解決に向けた計画的な取り組みの推進が期待される。</p> <p>法人全体で施設長のマネジメント能力の向上を目指した研修を計画的に実施している</p> <p>施設長には日常の保育に関する事項や法人が設定した予算の範囲内で自園の経費をコントロールする権限が与えられている。法人全体として現場のトップである施設長の育成に力を入れて取り組んでおり、年間の研修計画に基づき、毎月、人材マネジメントと保育の質のそれぞれのカテゴリごとにテーマを設定して、同一エリア内の事業所の施設長が学びを共有している。研修の講師は法人役員の他、本社の管理職と施設長が交代しながら務めており、各事業所の主任クラスの職員による横断的な会議との連動を意識したカリキュラムを策定している。</p> <p>年2回の保護者懇談会及び運営委員会で、事業の報告や要望等の把握に努めている</p> <p>年2回、保護者懇談会と運営委員会を平日の夕方、同日に開催している。懇談会では、保育の状況について、子どもたちの園での姿を中心に職員から報告するとともに、保護者が普段感じている園に対する疑問や要望等に応えている。また、子育てに関する保護者の悩み等を語り合う場を設けるようにしている。運営委員会には各クラスの代表の保護者、事業所から施設長及び本社スタッフ、外部委員として系列園の施設長が参加し、園から事業の報告を行うとともに、保護者からの意見や要望等の把握に努めている。その議事内容を保護者及び職員に開示している。</p>		

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>法人による外部環境の分析と園が集約した保護者の意向の結果を改善に活用している</p> <p>法人のマネジメントシステムにおいて、保育サービスに関連する法制度についての情報収集は施設長の役割となっているが、実際には本社が中心となって、関連する法制度の改正や社会・経済環境の変化、業界の動向等に関する情報の収集を行い、幹部会議における分析結果を毎月の施設長会議や研修等の場で職員に伝えている。園では、保護者との日常的なやり取りの中でニーズの把握に努めるとともに、法人全体として年1回実施するアンケートを通じて保護者の意向を集約し、保育の振り返りと継続的な改善に活用している。</p> <p>保育の全体的な計画との関連を整理しながら事業計画書の内容を吟味することが望まれる</p> <p>法人のフォーマットに沿って単年度の事業計画書を作成しており、その最後に「3か年計画」として、各年度の目標を一文で謳っている。年度ごとに作成する事業計画書とその対となる事業報告書について、園の運営管理の仕組みの中でどのような役割を果たすものなのか、付表を含む保育の全体的な計画との違いや関連を整理したうえで、必要な内容を吟味することが期待される。事業報告書においては、事業の実績報告と併せ、計画に照らしての一年間の取り組みの評価及び分析をおこなったうえで、次年度の事業計画につなげていくことが期待される。</p> <p>園全体の目標達成に対する職員の参画意識や責任感を高める仕組みの検討が期待される</p> <p>昨年度の収支予算書は本社主導で編成しており、園の事業計画との関連に関して、施設長から明確な説明は聞かれなかった。法人では、年度の収支予算の作成において、今後、施設長が決定する範囲と権限を広げていく方向で検討を進めている。施設長に対する目標管理制度では、主に園全体の目標が設定され、半年ごとに達成状況を確認している。今後、事業所の目標と連鎖する形で職員一人ひとりの目標を設定する仕組みを整え、事業所全体の目標達成に対する職員の参画意識や責任感を高めることが期待される。</p>		

3 経営における社会的責任			カテゴリー3
			サブカテゴリー1(3-1)
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的を確認している		○非該当
			サブカテゴリー2(3-2)
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当

サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-3の講評		
<p>法人全体として定期的な内部監査や自己点検の仕組みを整え、法令遵守体制を整えている</p> <p>法人全体として独自の点検項目に沿って3か月ごとに内部監査を実施している他、職員一人ひとりが日常の子どもに適切に対応しているかを共通のチェック項目で自己点検する取り組みを年2回実施している。また、各園における書類の整備状況や日々の職員配置の状況等について、法令の要件を満たしているかを本社が一元的に管理する仕組みを整えている。基準を下回った場合にはPCの画面上でアラートが上がることになっているが、実際には是正が必要な状態を把握しきれていないケースも生じており、今後、何らかのサブシステムの整備が期待される。</p> <p>虐待防止に向けた関係機関との連携体制や法人全体の内部通報制度を整えている</p> <p>家庭での子どもの虐待が疑われる場合は、法人役員の指示に基づき、関係機関と連携して対応する体制を整えている。また、法人全体の内部通報制度を職員がより利用しやすい形に改め、園内での虐待が疑われるケースに早期に対応できるように努めている。通常の保育においては異年齢保育を基本としており、常に複数の職員が目子どもを見守る環境がある。当園では、施設長を中心に職員同士が一人ひとりの気づきを伝え合い、相互に高め合う関係性の構築を目指しており、子どもに対する不適切な対応の排除に取り組んでいる。</p> <p>保育の体験等を通じて地域の子育て家庭を支援する事業を計画的に実施している</p> <p>保育の全体的な計画に基づき、地域の子育て家庭を対象に、園での制作活動や公園での集団遊びを親子で体験する中で、遊び方のヒントを学んだり、日頃の育児の悩み等を保育士に相談することでストレスの解消に役立ててもらう取り組みを計画的に実施している。活動の予定や毎回の様子を知らせる通信を発行し、参加者をはじめ、地域の関係者・関係機関に配布している。昨年度は毎月1回、計12回の開催で、参加者数は大人と子ども合わせて延べ31人だったところ、今年度は12月までで34人となっており、着実な広がりを見せている。</p>		

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>園運営における重大なリスクを軽減するための対策を講じている</p> <p>保育中の子どものケガや事故、感染症の発生その他、園運営における法令違反や職員の離職を重大なリスクと位置づけ、その防止に向けて、法人本部を中心とするコンプライアンス体制の整備や職員の意向を踏まえた研修の機会の提供、職員同士の自主的な学び合いの支援等に力を入れている。また、感染症予防のための衛生管理に努め、流行のシーズンを迎える前に衛生用品一式を用意し、それを使った汚物処理の実演研修を毎年実施している。今後、大規模災害発生時の対応や事業の継続に向けた具体的な対策を関係者・関係機関とともに検討することが期待される。</p> <p>子どもの安全確保に向けた職員間の情報共有と研修を通じた意識の啓発に努めている</p> <p>子どもが自然体験を始めとする様々な経験を通じて自分で考え、行動する力を育成することを法人の保育理念に掲げる一方で、活動中の事故や子どものけがを防止するため、事故及び事故の危険に直面した職員が、その状況等を書面にまとめて報告し、毎月の職員会議や日々のミーティングで情報共有を図るなど、安全管理に力を入れている。また、日常の保育環境に潜む危険に対するアンテナを高めるための職員研修の実施や、職員に向けた法人の通信に法人内外の事業所で実際に起きた事故事例を掲載するなど啓発に努めている。</p> <p>利用者の個人情報保護の仕組みと、情報を共有・活用するためのルールを整備している</p> <p>利用契約を結ぶ時点で、利用者から預かる個人情報の使用目的や使用の条件等を文書で提示し、保護者の同意を求めている。職務上、利用者の個人情報を知り得る立場にある職員や実習生には、退職後または実習終了後も外部に漏らさないことを誓約した文書への署名・提出を義務付けている。また、事務室内に鍵付き保管庫を設置し、個人情報を含む書類を分類・整理して保管している。組織内で共有することを目的に収集・蓄積している情報は法人のルールに従ってファイリングし、パソコン内またはキャビネットの所定の場所に保管して、職員に周知している。</p>		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	評点(〇〇〇)
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる
カテゴリ-5の講評	
<p>職員採用の際は法人理念に対する共感を重視し、法人が期待する人材像を明示している</p> <p>職員の確保と定着を最重要課題に据え、保育士については新規学卒者の定期採用を軸に本社が一括して採用をおこなっている。求人難の折り、職員からの紹介制度を導入している。選考にあたっては法人理念に対する共感を重視し、法人として期待する人材像や共通の目標に向けたミッションとその実現に必要な能力等を明示して入職時に説明している。当事業所では今年度2名の新卒の保育士を採用した。職員の年齢構成は20歳代が中心で、今後は育児に関する相談機能をより高めることで保護者のさらなる安心感につなげるための職員配置等の工夫が期待される。</p> <p>職員のモチベーションの向上と職員間の連携による組織力の強化に取り組んでいる</p> <p>法人全体の人事制度において、職員に期待する能力やマインドについて、定着の度合いを所定の項目ごとに評価し、その結果を集計して昇給や賞与、昇格等に反映している。また、全社的な業務改善のプロジェクトに職員の主体的な参加を呼びかけ、現場からのアイデアや提案を積極的に取り入れるなど、職員のモチベーションの向上に取り組んでいる。当事業所では職員間の情報共有と職種間の連携に加え、職員同士が相互に気づきを伝え合い、指摘し合える関係性を高めることで組織力のさらなる強化を図ることを重点目標の一つに掲げ、取り組みを進めている。</p> <p>各人の役割や意向に応じた研修や個別面談での振り返りを通じて職員の育成を図っている</p> <p>法人として階層別の研修制度を整備するとともに、職員一人ひとりの学習ニーズを把握し、それに応じて外部研修を案内している。今後はさらに職員の個別の状況等に応じて園内研修の充実等に向けた検討が期待される。また、施設長が年2回、職員と個別に面接を行い、半年間の職務を振り返りながら達成状況を評価し、各人の課題や目標を明らかにする取り組みをおこなっている。今年度、現場に対する発信力を期待して、職員のうち2名をリーダーに任命した。施設長によるOJTや法人の会議等への参加により育成を図っている。</p>	

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

2年前までは調理スタッフが安定せず、食育活動を計画通り実施できない状況があった。その反省を踏まえ、前年度は職員体制を整えたうえで、年間の食育計画の着実な実施に向けて、月の活動に対する計画書を作成し、実施した結果を担当者間で振り返る取り組みを継続した。前年度を振り返り、職員体制を整え計画等を見直し、調理スタッフを中心に年間食育計画を月間の計画に落とし込み、着実に実施している。また、実施した結果を担当者間で振り返る取り組みを継続した。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

年間計画に沿って食育活動を毎月実施し、その結果を担当者間で振り返る中で、子どもたちが給食で食べる食材に触れる機会が増え、それが子どもの食に対する興味や意欲を高め、結果として残食数の減少につながった。そうした活動の成果を組織全体で共有したうえで、今年度に向けては、調理スタッフと担当保育士が中心となって話し合いを進めてきたものの全体化を図り、職員の共通認識のもとで食育活動をすすめることを目標に掲げている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

子どものおむつ交換の手順や午睡中のSIDS(乳幼児突然死症候群)予防のためのチェックの方法については、法人共通のルールが定められている。また、職員が夕方に行う園内の清掃作業の内容や範囲に関して、園の会議での検討を経てチェックリストが作成されている。その手順を徹底するため、実際にその業務を行う場所に手順を明記した書面を掲示した他、清掃に関しては、室内各所の写真を撮り、それをもとに、どういう状態を目指すかを職員間で話し合い、基準を明確にした。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

事業所は、組織で定めた業務の手順や基準を改めて明確にしたことで、職員の意識や動きが徐々に変わってきており、所定の手順等から外れている場合に、職員同士で指摘ができるようになってきたと振り返っている。そうした声は、今回実施した職員一人ひとりの自己評価でも同様に寄せられており、一定の有効性が認められる。職員個々の解釈によって所定の手順等が徹底しない場合、そのように定めた理由や合理性に対する説明や理解が十分でないことが原因の一つとして考えられる。清掃作業のチェックリストについては、項目の量や作業時間などを考慮し、職員の業務と無理なく実施できるよう検討・改善を進めている。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている	○非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>グループ全体のホームページにより、共通の保育理念や方針、保育目標等を案内している</p> <p>グループ全体のホームページを通じて、共通の保育理念や方針、保育目標等を案内している。系列園での子ども実際の活動や生活の場を撮影した動画や写真画像を使って文字情報を補うとともに、必要に応じて英語及び中国語の表記への切り替えを可能とするなど、ユーザーの多様なニーズに配慮している。ホームページの問い合わせフォームから利用希望の園を指定して資料請求や見学希望のオーダーを送ることもできる。昨年度リニューアルしたホームページの内容に関し、保護者の感想や意見等を集約して、さらなる充実に活かしていくことが期待される。</p> <p>見学案内の際は、施設長とリーダーの職員が中心となって、ていねいな対応に努めている</p> <p>見学の問い合わせは電話等で随時受け付け、実際の見学は曜日と時間帯をある程度固定し、1回3人程度を上限にして、施設長とリーダーの職員がていねいな説明に努めている。見学の際は園のパンフレットや保護者向けの毎月の通信を配布し、園の概要や子どもたちの園での日常生活や活動の様子を伝えている。案内用の印刷物には写真画像が多く取り込まれ、子どもたちの生き生きした姿を伝えるレイアウトの工夫が見られる。見学対応は役職者だけでなく、他の職員もパンフレットに沿って理念等を自分の言葉で説明できるよう、研修等の実施を検討している。</p> <p>利用定員に空きがない場合は、当園の一時保育の他、同系列の他園を紹介することもある</p> <p>利用の希望を受けても定員に空きがなく、すぐに利用できない場合は、待機者リストに登録するかどうかの意思を確認のうえ、空きが生じた時点で、申し込み順に並んだリストの上位者から順次案内している。また、定員の枠内での一時保育を実施しており、必要に応じて、そちらの利用についても案内している。他の区市町村に居住地があり、保育施設の確保を急いでいるような場合は、自宅近くにある系列の他園を紹介することもある。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>利用契約の際の保護者との個別面談で、子どもの保育に必要な情報や要望を把握している</p> <p>利用契約の際に書面による重要事項等の説明と契約書類の取り交わしを行うとともに、保護者から保育に必要な情報の提供を受けている。子どもの食物アレルギーや健康状態を含め、子どもや家庭の状況について事前の記入を依頼した書類をもとに、個別の面談において保護者から聞き取りをおこなっている。また、保護者が育児において気になっていることや保育に対する要望等を聞き取り、統一した記録用紙に記入して、職員間で共有している。</p> <p>子どもが園の生活に慣れるための個別の対応や保護者に対する情報提供に配慮している</p> <p>新入園の乳児には、なるべく特定の保育士が関わるようにし、子どもとの愛着関係を築く中で園の生活に慣れるよう配慮している。慣らし保育(慣れ保育)は必須とはしておらず、保護者の要望に応じて対応している。通常は1~2週間かけて段階的に保育時間を延ばしていくことが多い。法人全体として迎えの際にその日の子どもの様子を保護者にていねいに伝える取り組みに力を入れている。連絡帳に代わるスマホアプリを介した双方向の連絡ツールの活用により、保護者が子どもの園での様子を携帯端末で確認できることで安心感につながっている。</p> <p>利用終了後も毎月の子育て支援事業への参加を呼びかけ、卒園児の親子が参加している</p> <p>サービス終了後も、毎月実施している地域の子育て支援事業(子育てサロン)の開催案内を送り、園に遊びに来るように誘い掛けている。実際に卒園児の保護者が子どもを連れて子育てサロンに参加しており、卒園後も馴染みの場所に帰って来られることが子どもと保護者の安心感につながっている面もあると思われる。転園等に際し、必要に応じて子どもに対する個別の配慮事項等を所定の様式に記述し、保護者の同意のもとで転園先に情報提供する仕組みを法人として整えている。</p>			

サブカテゴリ-3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当	
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当	

サブカテゴリ-3の講評		
<p>法人から配信された保育の全体的な計画と指導計画をもとに園の保育計画を作成している</p> <p>法人本部より毎年2月初めに次年度の全体的な計画と年間指導計画のひな型が各園に配信され、園の職員会議で当年度の取り組みの振り返りをもとに次年度の計画を検討、作成する流れが明示されている。法人のルールに則り、各クラスの担任が月間及び週間の保育計画を期限までに施設長に提出することに力を入れて取り組んでいる。法人の方針のもと、異年齢の子どもたちの育ち合いを保育の基本に据える中、日常の保育はクラスの垣根を超えて展開されており、今後は異年齢保育の計画作成等により、クラス間の有機的な連携の強化を図ることが期待される。</p> <p>日々の保育記録が個別の保育のねらいを踏まえた内容になっているかの検証が望まれる</p> <p>各クラスの月間指導計画を踏まえて個別の月案または週・日案を作成し、日々の保育記録をもとに振り返りを行い、次期の計画につなげる仕組みを整えている。また、毎月すべての子どもの発達状況を児童票の項目に沿ってチェックするとともに、子どもの姿の変化等を個別に記録している。法人の方針のもと、保護者からの開示請求を前提に質の高い記録を残すことを目指しており、法人全体の研修等でスキルアップに取り組んでいる。</p> <p>ミーティングやノートを活用して保護者との連絡事項や子どもの情報の共有に努めている</p> <p>7時から20時の開園時間の中で、保護者からの連絡事項や薬の預かり状況等を職員が所定のノートに随時書き込み、全員で確認できるようにするとともに、朝の活動開始時及び子どもの午睡時のミーティングで全体の申し送りをおこなっている。また、保護者から意見や要望を受けた場合は、その内容を職員が所定のシートに記入して施設長に提出し、園会議で検討する仕組みを整えている。各クラスの担任は毎月の園会議でクラスの状況と気になる子どもの様子等を報告し、園全体で情報の共有を図っている。</p>		
サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
<p>評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
<p>評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>保護者より個人情報や写真使用の承諾を取るとともに取り扱いのマニュアルを備えている</p> <p>利用契約の際に、利用者の個人情報の使用目的や使用方法等について書面で説明し、同意を得たことを署名で確認している。必要に応じて療育機関や医療機関等に個人情報の外部提供を行う際は、その都度、保護者の意思確認をおこなっている。また、園の毎月の通信等には子どもたちの日常の活動の様子を生き生きと伝えるために写真を多用しており、その際は顔写真のアップは避けるとともに、保護者より使用の承諾を受けている。法人として個人情報の保護に関するマニュアルを整備するとともに職員に対する研修を行い、周知に努めている。</p> <p>子どもの意思を尊重し、子どもが自分でできることを見守る姿勢を重視している</p> <p>法人として、子どもを呼び捨てにしないことを徹底するとともに、子どもが自分でできることを見守る姿勢を重視している。今回の観察調査においては、子どもに対する職員の接し方は全体として抑制的で、職員の声が響き渡るような場面は見受けられなかった。登園時間はある程度決められているものの、家庭の状況に応じて個別に話し合いを行い、柔軟に対応している。家庭での養育環境が気になる場合は、担任からの報告を受けて職員会議で情報を共有し、必要に応じて法人役員に報告・相談を行いながら関係機関と連携して対応する体制を整えている。</p>		

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリ-6の講評			
<p>品質管理の仕組みのもとでの継続的な改善活動を通じて、業務の標準化に取り組んでいる</p> <p>法人として保育サービスの分野で国際的な品質管理の基準に沿った取り組みを継続的に行い、専門の認証機関による定期的な審査を受けている。また、所定の研修を受けた社員が法人の定める点検表に沿って毎年内部監査を行い、その結果を各事業所にフィードバックして、振り返りの材料としている。点検表には300以上の項目ごとに確認の方法が具体的に示されており、業務の標準化に対する法人の強い姿勢がうかがえる。今後、保育所保育指針や関係法令の改定を踏まえた用語や内容の見直しを継続的に図ることが期待される。</p> <p>保育品質マニュアルの活用や職員研修により日常業務や緊急時対応の標準化を図っている</p> <p>法人の定める保育品質マニュアルは、衛生管理、感染症、危機管理、虐待対応、苦情対応、保健計画、食育計画、給食提供の各領域で構成されており、入職時に正職員全員に冊子が配布されている。各自必要なページにインデックスをつけて素早く確認できるようするなど、工夫しながら活用している。また、緊急時の対応や通報のフローチャートを電話の近くに掲示している他、アドレナリン自己注射薬の練習キットを使った研修や園内に備え置かれた衛生用品の一式を使用した嘔吐物処理の実演訓練等を行い、職員が落ち着いて対応できるように努めている。</p> <p>マニュアルを定期的に見直す過程において、現場の意見を反映する仕組みを整えている</p> <p>法人として現場の職員の前向きな意見やアイデアを大切に、それらを積極的に取り入れて体験学習の企画や職員研修の内容に活かしている。保育品質マニュアルを毎年見直す過程においても、現場の意見を集約して改定につなげる仕組みを整えている。今後は法人全体で年1回、園ごとに実施する保護者アンケートの集計結果についてもマニュアルを見直す際の材料に活用することが期待される。また、相当な分量のある保育品質マニュアルについて、その内容が細部にわたって現場に周知されているかを点検し、現状の把握につなげることが望まれる。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
		36 / 36	
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(000000)	
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当
	●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当
	●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
	●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当
	●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている	○非該当
評価項目1の講評			
<p>日々の昼礼や毎月の職員会議で子ども一人ひとりの様子を報告し、情報を共有している</p> <p>連絡帳で家庭での様子を把握し、月の会議で全員の子の姿を報告し昼礼でも子の様子について情報を共有している。2歳児クラスまで月の個別保育計画を作成している。0歳児から異年齢保育を実践しているため、月間指導計画策定の段階から各クラスで連携し、共通のねらいをもって日々の保育につなげたい。また、その日の保育のねらいを各クラスに掲示しているが、今後は月の個別保育計画のねらいを保護者に伝えるとともに週指導計画を掲示し保育内容を伝え、保護者とともに子どもを育てる姿勢をわかりやすい形で表していくことも期待したい。</p> <p>異年齢保育の中で、生活・遊び・関わりを通じ、子ども同士の育ち合いを支援している</p> <p>「互いを思いやり、健やかな成長を育める安心感のある保育園を目指す」ことを園目標に掲げ、「兄弟姉妹が生活・遊び・労働を教え合う保育」の実践に努めている。3歳未満児を中心とする当園では、園での生活や遊び、関わりを通じて、年上の子どもが年下の子どもの世話をする関係が育ったり、2歳児の活動に1歳児が加わることで言葉の発達が促されるといった姿が見られている。子どもたちがともに生活する中で、子どもの個性を尊重し、自分のやりたい事や気持ちを表せる環境作りに努めている。</p> <p>子ども同士の噛みつきやトラブルの際は、子どもの気持ちを尊重した対応に努めている</p> <p>保護者懇談会で、子ども同士の噛みつきや物の取り合いによるトラブルは、発達の過程において生じる事を伝えている。1歳児の玩具の取り合いが多く、保育士の立ち位置の工夫や声かけによりトラブルの予防に努めるとともに、噛みつきがあった時はそれぞれの子どもの気持ちを受け止め、代弁することで再発の防止に努めている。それでも繰り返し噛んでしまう子に関しては、休日の様子を連絡帳に記録してもらうなど家庭での状況を把握したうえで、職員会議で原因の分析と対策の検討をおこなっている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>年齢が上の子どもに倣って小さい子どもが着替え等に取り組む姿を保育士が見守っている</p> <p>異年齢の子どもたちが一緒に生活する中で、手洗いや着替え、靴の着脱等の生活習慣については、年齢が上の子どもが自分で行う様子を見て、小さい子どもたちがそれを模倣する姿が見られる。保育士は子どもの自主性を尊重して介添えや声掛けは必要最小限にとどめ、時間をかけて見守っている。午前中の戸外保育から戻っての着替えの際は、排せつ介助に保育士が1名つき、トイレ前のおむつ替えのスペースで数名ずつ介助しながら、排せつの時間等を記録している。食事は同じクラスの子どもがテーブルを囲みながら、落ち着いて食べている様子を確認できた。</p> <p>子どもの気持ちや自主性を尊重し、自分のリズムで生活を送れるように支援している</p> <p>食事の済んだ子どもから順に午睡に入るが、2歳児はその前に歯磨きをすることを習慣化している。職員に指示されることなく、自分から手洗い場近くの椅子に座って歯磨きをする子どもたちの姿が見られた。眠くなった子どもの側に保育士が付く一方で、中には玩具棚の近くで静かに遊んだり、おしゃべりをしている子もいる。保育士は特に声掛けはせず、寝付くのが13時半位になったり、日によっては最後まで寝ない子もいる。子どもに寝ることを強制せず、午睡の時間が子どもにとって苦痛にならないように配慮している。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>法人全体の会議で検討結果をもとに、子どもの自主性を育む環境構成の改善を図っている</p> <p>保育の質の向上をミッションに据えた法人全体の会議を月1回、本社で開催しており、系列園の中核的な職員が参加している。法人の目指す保育実践に対する学びを深める研修を兼ねており、今年度は保育の環境構成をテーマの一つにしている。子どもが安全に集中して遊べる空間の作り方や遊具、玩具の置き方などが話し合わせ、その成果を園に持ち帰って、子どもが遊びやすく、片付けやすいままと遊びや絵本のコーナー、汽車や車の玩具で遊ぶエリアの設定などの改善を図られた。子どもたちが自分の好きなコーナーで落ち着いて遊ぶ姿が見られている。</p> <p>リズム体操や農作業を通しての自然体験等により、生きる力を育む保育を展開している</p> <p>保育のねらいに「ケガをしない強い体を育てる」掲げ、子どもたちは室内では裸足で過ごしている。毎朝、リズム体操の時間を設け、電子ピアノの曲に合わせて、子どもたちが全身を使って動物の動きを真似たりしながら楽しく体を動かしている。指導計画における教育の各領域を踏まえ、体育・音楽指導、畑や田んぼでの泥遊びや農作業を通しての自然体験、近隣の図書館やコンビニを訪れ、働く人の姿を見るなど、法人の保育目標につながる活動を展開している。また、園内でインコや魚を飼育しており、生き物の世話を通して生死の教育を実施している。</p> <p>毎日の午前・午後に戸外保育を行い、自然や季節を感じながら遊びを楽しんでいる</p> <p>天気の良い日は9時半を目安に散歩に出掛け、近隣の公園まで歩いて、砂場や遊具などで遊んでいる。午前中の園外活動は全員参加を基本としている。運河沿いには緑もあり、自然や季節を感じる時間となっている。雨天時はアスレチック遊具や乳児用滑り台、絵本、ソフト積み木などを備えた別棟マンション内のキッズルームに移動し、職員が見守る中、子どもたちが好きな遊びを楽しんでいる。午後、おやつを食べた後の園外活動は全員ではなく希望する子どもが参加している。園外活動の際は出発時・帰園時の他にも随時、子どもの人数確認をおこなっている。</p>		
4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>運動会や生活発表会を普段の保育の延長に位置づけ、成長を確かめ合う機会としている</p> <p>11月の土曜日に近隣の小学校の体育館を借りて運動会を実施している。子どもの運動能力を競う目的ではなく、日常の保育における遊びの延長と位置づけ、0歳児を含む子どもたちが普段の生活や活動の中で身につけた動作や生活習慣を演目の中に取り入れる工夫をおこなっている。また、2月の生活発表会ではクラスごとに歌や手遊び、劇などを披露し、子どもの1年間の成長を保護者に見てもらうとともに、子どもたちが皆で協力し、やり遂げる喜びを感じられるように配慮している。保護者とともに子どもたちの成長を確かめ、喜び合う機会になっている。</p> <p>年度初めに年間の行事予定表を配布しており、保護者の理解と協力が得られている</p> <p>年度初めに年間の行事予定表を保護者に配布している他、毎月発行の園だよりに月の行事予定表を掲載して、周知を図っている。保護者が参加しやすい行事日程に対する配慮に関しては、今回実施した利用者調査の結果でも満足度が高く、保護者の理解と協力が得られている様子がうかがえる。玄関ロビーに保護者向けの行事に関する案内や協力依頼を掲示することがあるが、掲示物が多いため、内容ごとにコーナーを分けるなど、掲示の仕方に工夫があるとさらに良いと思われる。</p>		

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当	
評価項目5の講評			
<p>子どもがそれぞれの遊びに集中できる環境設定の工夫等により、落ち着いて過ごしている</p> <p>ワンフロアのオープンスペースをパーティションで大きく3つに区切り、用途を分けている。遊びのスペースでは、壁面側に子どもの手が届く高さの低い棚を置き、ままごとコーナーと汽車遊び・絵本コーナーを設けている。午後のおやつ後の時間は、子どもが自分の意思で過ごし方を決めている。戸外活動を希望する子どもは近隣の公園に散歩に出かけ、園内での活動を希望する子どもは、保育士とパネルシアターや絵本、手遊びを楽しんだり、各コーナーで友だちと一緒に、または並行してそれぞれの遊びを楽しむ中でくつろいで過ごせるような配慮が見られた。</p> <p>夕方以降の延長保育の時間帯は、保育士との密な関わりの中で、ゆったりと過ごしている</p> <p>18時から20時までの間の延長保育の時間帯は、通常7～8名の子どもが過ごしている。30分単位の契約で、当日のスポット利用も受け入れられている。迎えが19時を過ぎる場合は、別料金で夕食を提供している。子どもの人数が少ないので、保育士と密に関わりながら手作りの玩具で一緒に遊んだり、ゆったり過ごしている。迎えの際は、日中の担当者からの引き継ぎ簿をもとに、伝達事項を保護者に伝えている。</p>			
6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
	●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当	
評価項目6の講評			
<p>その日の献立や食材を子どもに知らせ、興味を持って食事ができるようにしている</p> <p>調理室前のスペースが食事場所になっている。カウンター下のホワイトボードに、その日の献立や食材をイラスト等で表示し、子どもが興味を持てるようにしている。配膳は保育士が行い、食べ方を見ながらお替りの要望を聞いて、子どもが食べたいものを追加している。子どもの嚙む力をつけるため、野菜などの食材は比較的大きめに切っており、子どもたちがしっかり食べている様子を確認できた。高さの揃ったテーブルや椅子でクラスごとにまとまって食事をしており、2歳児は1月から卒園に向けて部屋のスペースを区切り、食事・午睡場所を決めている。</p> <p>栄養士が子どもの食べ方や反応を確認しながら、献立や調理の改善に活かしている</p> <p>0歳児の家庭とは緊密に連絡を取り合い、子どもの喫食状況を相互に確認しながら離乳食を提供している。献立作成と調理を担当する栄養士が実際に食事をする子どもたちの姿を見て、一人ひとりの食べ方や反応を確認し、調理室脇のホワイトボードに一人ひとりの喫食状況を記録するとともに、その後の献立や調理に活かしている。七夕やクリスマス、生活発表会等の行事の際には特別メニューを提供している。栄養士は、区内保育施設の給食担当者の会議に出席して、献立に関する情報を交換したり、調理技術の講習に参加し、自園の給食の改善に取り組んでいる。</p> <p>畑での野菜作りを通じて、子どもが自然界の循環に気づく取り組みをおこなっている</p> <p>食育の年間計画に基づき、栄養士と保育士が連携して食育活動を進めている。区内の公園内の畑を借りて野菜を育てており、苗を買いに行くところから始めて週2回、希望する子どもが法人のバスで現地に行き、さつま芋等の栽培や収穫を経験している。収穫物は給食の食材に活用している。法人の保育方針を踏まえ、畑の土おこしから苗植え、栽培、収穫に至る“労働”のプロセスと、食や食材の循環に気づく機会を大切にしている。また、行事に合わせて、夏野菜カレーやクリスマスケーキ、恵方巻の調理や味噌作りなどを栄養士の指導のもとでおこなっている。</p>			

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している		○非該当
評価項目7の講評			
<p>強い体を育てるための裸足保育や戸外保育の際の交通安全指導に取り組んでいる 「ケガをしない強い体を育てる」ことを保育目標の一つに掲げ、裸足保育や毎朝のリズム体操を取り入れている。リズム体操ではピアノの曲に合わせて、動物や乗り物等の動きを表現し、体幹や柔軟性を育てている。また、園外活動後や食事前には手洗い・うがいをし、習慣化しているが、まだ援助が必要な年齢の子どもには、より丁寧な援助が必要である様子が見受けられた。戸外活動の際は園の出発時と到着時の他、目的地の公園の到着時と出発時にも子どもの人数確認を行うとともに、途中の交通量の多い道で子どもに危険を知らせ、安全指導をおこなっている。</p> <p>食物アレルギーのある子どもに対して、医師や家庭と連携しながら個別に対応している 食物アレルギーのある子どもには、医師の指示書に基づき、家庭とも連携しながら除去食を提供している。器を載せたトレーに名前と除去食材を明記したラップをかけて配膳し、受け渡しの際、職員同士が声を出し合いながら確認して、誤食防止に努めている。また、医療的な配慮を要する子どもに関しては、昼礼時にその日の様子について情報を共有しているが、特に疾病名がつかような場合は、経過や状態の把握がしやすいよう、ファイリングや記録の管理方法には工夫の余地がある。</p> <p>法人全体として感染症予防のための対策や情報提供、及びSIDS予防に取り組んでいる 園児が感染症に罹った場合は、子どもの年齢、発症の日時、症状、登園の目安等を掲示し、保護者に知らせている他、スマホの専用アプリを通じて本部から感染症に関する情報を一斉配信し、注意喚起を図っている。流行時期には玄関脇のカウンターに消毒スプレーを置き、菌の侵入防止に努めるとともに、室内に加湿器を置いて、温湿度の調整をおこなっている。また、乳幼児突然死症候群(SIDS)予防として0歳児は5分ごと、1・2歳児は10分ごとに子どもの呼吸や体の向きを確認し、チェックの結果を専用アプリを通じて保護者に配信している。</p>			
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
<p>毎日「3分間お迎え対応」をし会話を通して保護者と信頼関係を構築している 子どもの送り迎えの際は、玄関ロビーで保護者に対応している。特に迎えの際は、「3分間お迎え対応」と称して、子どもの一日の様子を具体的なエピソードを交えて保護者に伝える取り組みに法人として力を入れている。また、専用のアプリを介して、午前中の子どもたちの様子を写した画像をコメント付きで保護者のスマホに一斉配信している。今回実施した保護者アンケートでは、「子どもの様子を丁寧に伝えてくれる」といった声が複数寄せられており、保護者が概ね満足している様子がうかがえる。</p> <p>保護者懇談会や夕涼み会、運動会、生活発表会等が保護者同士の交流の機会となっている 保護者懇談会を年2回開いている。全体会の後をクラスごとの懇談の時間とし、保護者同士が子育てについての悩みや不安、経験等を共有する場を設けている。8月に実施する園の夕涼み会は平日の18時から19時に園内で開催し、職員が用意したヨーヨーや風鈴、うちわの制作、玉転がし等のコーナーを子どもと保護者が一緒に回って楽しむとともに、親子同士の交流の場になっている。また、11月の運動会や2月の生活発表会では、異年齢の子どもたちが園でともに過ごす中で育ち合い、成長した姿を保護者同士が互いに喜び合う機会となっている。</p> <p>保護者による保育参加を年間を通して受けているが、半数程度の参加にとどまっている 保護者による保育参加については、園のキャパシティから一日1名までとし、年間を通して受けている。玄関のカウンターにカレンダーが置かれ、保護者が希望日に丸印をつけて申し込みをしている。当日のオリエンテーションで施設長が保育参加の目的を伝え、保護者はエプロンをして保育士と一緒に保育活動に入っている。園での集団生活の中で自宅にいるときとは違う子どもの姿に気づく機会にもなる。全体の半数ほどの保護者が参加しており、保育参加の目的や意義などを伝えることで参加率の向上が期待される。</p>			

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>近隣の店舗等を訪問して、そこで働く大人と交流を図る取り組みをおこなっている</p> <p>子どもたちが自分の暮らす街にあるいろいろな店舗や会社、施設等を訪れ、そこで働く大人に仕事について質問し、交流を図る取り組みを週1回実施している。「商店街ツアー」と称する法人全体の取り組みを通じて、地域の中に顔見知りの関係が着実に広がっており、子どもたちの育ちを地域社会が支える土壌の形成に資する活動となっている。また、地元の中高生の職場体験を受け入れており、子どもたちが生徒と触れ合う機会となっている。</p> <p>園が実施する子育て支援事業への参加親子と一緒に交流する機会がある</p> <p>青空保育を月1回実施している。戸外保育の際に手遊びの人形や紙芝居などを持って公園に出掛け、そこに来ている地域の親子に声を掛けて、一緒に遊んでいる。また、地域の子育て家庭を対象とする子育てサロンを月1回土曜日の午前10時から11時、園で実施している。対象は2か月児から5歳児までとし、園内での制作や公園での集団遊び等、テーマを決めて実施している。土曜日に通園する子どもも一緒に参加し、地域の親子と交流する機会がある。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-2-2	虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている
タイトル①	保育士による虐待として、具体的な事例を挙げて定義を行い、マニュアルに明示している	
内容①	利用契約時の重要事項説明の中で、虐待防止の措置として、速やかに行政の関係機関に連絡し、早期に子どもの保護及び保護者対応に当たることを謳っている。また、保育品質マニュアルの中で、保育士による虐待として、「子どもを呼び捨てにする」「交換条件を示す」など14項目の具体的な事例をあげて定義し、該当する行為があった場合は、保護者及び行政への報告を検討すると明記している。さらに年2回、職員会議において、権利擁護の観点から日常の保育を振り返る機会を設けている。子どもに対する権利侵害を許さない法人の強い姿勢がうかがえる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル②	法人全体の自己啓発の仕組みとして、実践的な内容のスキルアップ講座を催している	
内容②	法人全体の自己啓発の仕組みとして、現場の職員が中心となって実践的な内容のスキルアップ講座を催し、職場や職種を超えて共に学び合う機会となっている。講座の内容は多岐にわたり、その数は年間で100を超えている。職員の自発性に基づく就業時間外の研修ではあるが、主体的な学びを重視する法人の人材育成の仕組みにおいて核をなす取り組みとなっており、本社の管理部門がその運営を全面的にサポートしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-2	子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている
タイトル③	迎えの際は子どもの一日の様子をエピソードを交えて保護者に伝えることを心掛けている	
内容③	登園時は子どもの体に特に変わった様子がないかを保護者とともに確認しながら、その日の園での生活において制約や留意すべき事項等を聞き取り、申し送りのための所定の様式に記録して職員間で共有している。保護者とは専用のアプリを介して子どもの様子等に関して情報をやり取りしている。子どもの午睡時間には、午前中の活動の様子を写真とコメントで毎日アプリにて配信している。迎えの際は、子どもの一日の様子を一言で終わらせず、具体的なエピソードを交えて保護者に伝えることを法人として重視しており、ていねいな対応を心掛けている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	異年齢の子どもたちが相互に関わりを持ちながら自主的に園での生活を送る姿を職員が愛情を持って見守っている
	内容	3歳未満児を中心とする当園は、異年齢の子どもたちが園での生活や遊び、関わりを通じて、ともに育ち合う関係を大切にしている。戸外保育に出掛ける際に年上の子どもが年下の子どもの手を引いたり、手洗いや着替え、靴の着脱等を年上の子どもが自分で行う様子を見て、年下の子どもがそれを模倣する姿が見られる。保育士は子どもの自主性を尊重して介添えや声掛けは必要最小限にとどめ、メリハリをつけた対応を心掛けている。職員が愛情を持って子どもたちを見守っていることが保護者にも伝わり、安心感につながっている様子がうかがえる。
2	タイトル	子どもたちの生きる力の基盤を形成するため、強い体をつくることや、人と関わる力を育むことに力を入れて取り組んでいる
	内容	保育を通じて、子どもたちの生きる力の基盤形成を家庭と連携しながら支えることを目指す中で、足指で地面をとらえる力をつけるための年間を通じた裸足教育や、徒歩での移動も含めたたっぷり時間をとった毎日の戸外保育、区内の公園内の畑を借りての野菜作り体験等に取り組んでいる。また、自分たちが暮らす街にあるいろいろな店舗や会社、施設等を週1回訪れ、そこで働く大人に仕事について質問し、交流を図っている。散歩の途中ですれ違う人に対しても保育士が率先して気持ちのよいあいさつを交わし、積極的に人と関わる姿勢を子どもに示している。
3	タイトル	職員間の情報共有と職種間の連携に加え、職員が相互に気づきを伝え合い、指摘し合える関係性を高めることで組織力の強化に取り組んでいる
	内容	当事業所では職員間の情報共有と職種間の連携に加え、職員同士が相互に気づきを伝え合い、指摘し合える関係性を高めることで組織力の強化を図ることを重点目標の一つに掲げている。毎日のミーティングや職員間の連絡ノートで、その日の子どもの様子や保護者との伝達事項を共有している他、保育士と調理スタッフの連携による食育活動の充実に取り組み、食に対する子どもの興味を高めながら給食の喫食状況の向上につなげている。課題となっている所定の業務手順の徹底についても、基準の明確化を図る中で、職員同士が自然に注意し合う姿が見られている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	法人の方針を踏まえ、異年齢の子どもの育ち合いを引き出す指導計画の構成と個別の保育のねらいの保護者との共有に向けた検討が期待される
	内容	当園は異年齢保育を基本としているものの、保育の計画は年齢別の年間及び月間指導計画を基本とし、保護者懇談会で説明している。保育を通じて子どもたちの育ち合いをどのように引き出していくかという視点に立った指導計画の構成と、それに基づく計画的な保育の展開が望まれる。また、家庭と連携しながら子どもたちの生きる力の基盤形成を支えるうえで、個別の保育計画における月ごとの保育のねらいを保護者と共有することが重要と考えられる。独自の連絡帳アプリを活用して保護者に発信するなどの方法を含め、今後の検討が期待される。
2	タイトル	職員の意向や状況を踏まえた園内研修等の機会を工夫する中で、職員の成長と定着をさらに推進することが期待される
	内容	法人として職員の確保と離職防止を重要課題に据え、対策を講じている。そうした中、独自の連絡帳アプリの開発と活用は、業務効率化と職員の負担軽減を目的の一つとしたものと思われる。また、階層別の研修制度を整備し、職員一人ひとりの学習ニーズに基づく外部研修を案内している。実際には現場の人員体制や各人の事情等によって受講状況に差が生じており、施設長が日々の保育を通じて個別の育成に努めている。今後は職員同士が専門職として相互に高め合うための園内研修等の機会を工夫する中で、職員の成長と定着をさらに推進することが期待される。
3	タイトル	近隣の保育所等との交流を通じて園児が年中・年長の子どもと一緒に遊ぶ機会を増やし、転園後の不安の解消につなげていくことが期待される
	内容	地域の子育て家庭を対象とする子育てサロンを月1回、園で実施している。対象は2か月児から5歳児までとし、園内での制作や公園での集団遊び等、テーマを決めて実施している。2歳児クラスまで当園に在籍していた子どもが保護者とともに参加し、園児と交流することもある。現実的に多くの子どもが3歳児クラスに上がるタイミングで周辺の認可保育所等に転園していくことから、今後は近隣の保育所等との定期的な交流を通じて、園児が年中・年長の子どもと一緒に遊ぶ機会を増やし、転園後の不安の解消につなげていくことが期待される。